

常に聴かせる太鼓を

先ごろ開催された非鉄金属リサイクル全国連合会総会後の懇親会で和太鼓が勇壮に響き渡った。その中心で太鼓をたたいたのが、総合リサイクル企業ウエスギの上杉圭司社長だ。

上杉氏が生まれ育った三重県四日市市は諏訪太鼓の伝統が継承されている。上杉氏も幼稚園のころから「夏休みには日課のように」太鼓をたたいてきた。

上杉氏は自らのこと「太鼓バカ」と語るほど太鼓に力を注いできた。神事でもあった太鼓には、人を引き付ける魅力があるのだろう。

上杉氏は1987年に有志とともに「遊鼓会」を

結成。各地の祭りなどで演奏を披露してきた。上杉氏はオリジナルメンバーとして活躍、現在では同会の副会長を務める。結成メンバーの中では若手であったが「良い仲間」に恵まれ感謝してい

ウエスギ社長 上杉圭司氏



る。上下関係など礼儀も学ぶことができた。仲間と太鼓をたたけばストレスなども解消できる」と会に対する愛着は深い。和太鼓演奏の1ステーションは約40分と長く、体力的にも見た目以上にきつい。だが「老人ホームに慰問に行った際には涙を流して喜んでくれ、耳が聞こえない聴覚障害者も肌で太鼓の音を感じたと語ってくれた。何物にも変えられない喜びがある」と語る。

最近では仕事が多忙で、満足に練習に参加できないと漏らす。だが「人前で太鼓をたたく以上、常に聴かせる太鼓をたたきたい」と語るその横顔からは、太鼓奏者としてのプライドがのぞき見えた。